

災害リスク分析

目次

居住誘導区域における災害リスク分析

- (1) 浸水深（洪水）×建築階数×防災施設（避難所等）・・・・・・・・付録- 4
- 想定最大規模（1/1000規模降雨以上）の雨によって浸水が発生した場合、浸水エリア外への避難や垂直避難が困難と想定されるエリアにコメントを記載しています。
- (2) 浸水深（高潮）×建築階数×防災施設（避難所等）・・・・・・・・付録-12
- 気圧の低下により台風が発生し、海面の水位が上昇することによって浸水が発生した場合、浸水エリア外への避難や垂直避難が困難と想定されるエリアにコメントを記載しています。
- (3) 浸水深（内水）×建物（階数）×防災施設（避難所等）・・・・・・・・付録-20
- 河川や水路の水位が高くなり、道路排水が河川や水路へ放流できなくなることによって内水氾濫が発生した場合、床上浸水もしくは床下浸水が想定されるエリアにコメントを記載しています。
- (4) 浸水（洪水）到達時間・家屋倒壊等氾濫想定区域
×防災施設（避難所・高齢者・道路）・公共施設・・・・・・・・付録-28
- 想定最大規模の降雨により、河川が氾濫してから30分以内に浸水するエリア、もしくは河川の氾濫や堤防の決壊によって家屋等の建築物が倒壊・流出する危険性が高いと想定されるエリアにコメントを記載しています。
- (5) 浸水（洪水）継続時間
×防災施設（避難所・道路（緊急輸送道路））・・・・・・・・付録-36
- 想定最大規模の降雨により、河川が氾濫した場合、浸水が1日以上継続することが想定されるエリアにコメントを記載しています。

- (6) どこにでも起こりうる直下地震
×旧耐震基準に基づき建てられたと想定される木造建築物
・・・・・・・・付録-44

直下型地震は発生場所の予見が困難なため、1981年以前の旧耐震基準で設計された建築物は、直下型地震で倒壊する危険性があります。

- (7) どこにでも起こりうる直下の地震（液状化）
・・・・・・・・付録-52

直下型地震は発生場所の予見が困難なため、液状化が発生する可能性が極めて高いエリアの建築物は、直下型地震で倒壊する危険性があります。

- (8) 液状化発生傾向図
・・・・・・・・付録-60

地震により液状化が発生した場合、地形から推定される地盤特性によって、建築物への被害程度が大きくなる場合があります。

- (9) 大規模盛土造成地
・・・・・・・・付録-68

大規模盛土造成地は「谷埋め型」と「腹付け型」に分類され、地震発生時に盛土全体または大部分が旧地形に沿って滑り落ちる可能性があります。